

【野菜】の【台風・強風・大雨対策】について

農業経営支援課

【施設野菜全般】

(1) 事前対策

- ①ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ②ビニル破損や隙間を点検し、破損箇所は早急に補修する。
- ③ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度は増す。
- ④ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ⑤強風によりハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑥ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑦防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑧ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

※収穫終了後について

収穫が終了したハウスについても、破損ビニルやハウス内のマルチ等の資材が飛散しないよう、事前対策を徹底すること。



ハウス妻面の防風ネット設置例：

細かいネットを張った上から、比較的大きな目合のネットで押さえている

(2) 事後対策

- ①強風がおさまったら、直ちに換気を行い、補強で使用した防風ネット・寒冷紗等も除去する。
- ②ビニル破損等により生じた、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③湛水した場合速やかに排水を行う。
- ④草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。
- ⑤速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

【雨除けピーマン】

(1) 予想される被害状況

茎葉の損傷、傷果の発生、落果等による収量・品質の低下

(2) 事前対策

天井ビニルを剥ぎ、台風に備える。

(3) 事後対策

- ①ハウスビニル・防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くして、床面を乾燥させる。
- ②枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ③倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ④傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ⑤速効性窒素肥料を成分で10a当たり2～3kg施す。

【いちご（育苗期）】

(1) 予想される被害状況

・冠水による病害の蔓延

(2) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。
- ②寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。また、育苗ハウスの周囲に2～3mの防風ネットを設置し防風対策を講じる。

(3) 事後対策

- ①寒冷紗・防風ネット等の苗の上にかけていた被覆資材を、直ちに除去し、通風を良くする。
- ②苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。
- ③雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株を早めに除去する。
- ④草勢の低下により病害虫の発生が心配されるので、薬剤散布を実施する。特に土壌伝染性病害に注意する。

【露地野菜類全般】

(1) 事前対策

①表面排水を速やかにするため、排水溝の整備を行う。



排水対策①畦に直交に整備された排水路



排水対策②傾斜の大きいほ場のため、表土流出軽減を目的にマルチで簡易集水路を整備している事例



排水対策③確実にほ場外に水を排出させます。



排水対策④パイプの敷設で畦畔の崩壊を防ぎ、ほ場外に水を排出させます。



排水対策⑤排水口の点検整備を行います。



排水対策⑥このような状態では排水口が機能しません。

- ②防風ネットを設置するが、支柱や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ③ほ場内外を点検し、散水機材等、しっかり固定されているか確認する。また、強風で飛びそうなものは片付ける。
- ④トンネル被覆されている場合は、トンネルが剥げないようにバンドのチェックや被覆ビニルの補修を行う。強風で飛びそうなものは片付ける



(2) 事後対策

各作物毎に記載

【かんしょ】

(1) 予想される被害状況

畝が冠水するといもが変質する

(2) 事前対策

- ・排水溝等を設置し、排水に努める。

(3) 事後対策

- ①冠水するといもが変質するので、冠水した場合は早急に排水を行う。
- ②根が露出している場合は培土をおこない、少量の窒素肥料を追肥して、草勢の回復を図るが、収穫可能な場合は追肥は行わず早めに収穫する。

【スイートコーン】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。
- ②支柱をたてて、ひもを張り倒伏を防止する



倒伏対策①バインダーひもで株を挟み込みます。



倒伏対策②トンネル支柱を利用して倒伏防止のひもを張っています。

(2) 事後対策

生育期

- ①強風で倒伏した場合は、風が治まり次第立て直す(倒れたままにしない)。

収穫期

- ②冠水したほ場では速かに排水をを行う。
- ③倒伏した場合は、上向きに誘引する。
- ④肥大したものから早めに収穫する。

【かぼちゃ】

事後対策

- ・強風で茎葉が損傷した場合は殺菌剤を散布する。

【ばれいしょ】

(1) 事前対策

- ・排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

生育期

- ①強風により茎葉が損傷した場合は殺菌剤を散布する。

収穫期

- ②冠水したほ場では速かに排水をを行う。
- ③いもが肥大していれば早めに収穫する。収穫まで日数がかかるほ場については、疫病・軟腐病の予防として薬剤散布を直ちに行う。

【さといも】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①冠水したほ場では速かに排水を行い、早めに追肥を行う。
- ②疫病、軟腐病予防の薬剤散布を行う。
- ③株元まで冠水した場合は排水、マルチを剥いでから追肥、培土を行う。
- ④根が露出しているものは、早めに追肥して軽く土寄せする。

【オクラ】

(1) 事前対策

- ・排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

播種後～生育初期

- ・苗立ち枯れ病が出やすくなるので、殺菌剤をかん注する。

収穫期

- ①冠水したほ場では、速かに排水を行う。
- ②倒伏したら上向きに誘引し、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③速効性肥料を追肥し、薬剤散布を行う。

【露地きゅうり】

(1) 事前対策

- ①栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。
- ②排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ②倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

【きゃべつ、はくさい】

事後対策

- ・薬剤散布を行い、少量の窒素肥料を葉面散布して草勢回復を図る。